

令和6年度 学校評価・教職員自己評価 成果と課題

1 評価の方法

肯定的な意見「そう思う」、「ややそう思う」と否定的な意見「あまりそう思わない」、「そう思わない」を％で算出した。なお、「わからない」については、職種によって判断できないことが生じるので、この項を設定した。「わからない」の回答割合は除いた。【回答者数54名】
また、昨年度との比較をし、昨年度よりポイントが上がった項目は青字で、下がった項目は赤字で示した。5ポイント以上の変化がある項目は太字で示してある。

2 総括

1つの項目を除き、肯定的な評価が80％以上であった。33項目中32項目で良好な評価を得られ、100％達成された項目は4項目あるので、本年度は学校教育全体にわたって、教育実践が良好に遂行されたといえる。特に「6、教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などにあたっている。」「7、管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能している。」の2つの項目は、15ポイント以上上がっており、チーム押中として職員全員で教育活動に取り組めたことを表している。

ただし、評価項目の「32、「働き方改革」に向けて、勤務時間を意識して効率よく業務が遂行できている。」については、否定的な回答が39％であり、昨年度と比べても肯定的な回答が10ポイント下がっている。働き方改革に関しては、全国的な取り組みであり、本校でも重点的に取り組んでいかなければならない項目ではあるが、教員不足の面もあり、なかなか進んでいかなかった。今後更なる工夫や努力をし、働き方改革を進めていきたい。

今年度より、目指す学校像・生徒像・教師像に関する項目を追加した。教育目標に関する項目を入れることで、今まで以上に教育目標を意識していけるようにしたが、どの項目も肯定的な回答が95％以上であり、教育目標は達成されたと考えられる。また、大きな項目ごとに意見を書けるようにすることで、意見が書きやすくし、それにより意見が増えてきている。ただし、数値的には肯定的であるが、それが言語化されない、意見として書かれない部分もあった。今後は建設的な肯定意見も書けるような工夫もしていきたい。

(1) 学校教育目標に関すること ①学校教育目標					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
1	学校教育目標や重点目標が、社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっている。	100%	0%	98%	2%
2	職員の共通理解のもと、学校教育目標などをふまえた教育計画が立てられ、それを達成するための教育活動を行っている。	88%	12%	96%	4%
【考察と課題】					
・高評価であり、肯定的な評価が多く、殆どの職員が「共通理解のもと学校教育目標の達成へ向けて尽力した」と考えている。					
・日常的に学校教育目標に関連した話題をすることで、それを達成するための意識が高まっている。					
・殆どの職員が学校教育目標や重点目標が社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応したものになっていると回答しているが、社会や地域の変化も速くなってきているのでそれに対応していく。					
【改善策】					
・学校教育目標や重点目標が社会の変化や地域の特色・生徒の実態に即応するものとなるようにした上で、目標達成を意識した教育活動を今後も継続していく。					
・学校教育目標や重点目標の設定に際して、今後も学校運営協議会との連携を強化しながら目標の設定を考えていき、達成のための共通理解を図っていく					

(2) 学校経営に関すること ②教育課程管理					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
3	各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されている。	96%	4%	89%	11%
4	道徳・学活・総合の授業時数が確保され、それぞれの目標・指導計画に応じて実施している。	94%	6%	96%	4%
【考察と課題】 ・各教科の指導計画・評価計画が適切に作成され、授業時数が確保されているの項目が昨年度に比べ7ポイント下がっている。今年度は、昨年度に比べ授業日数が少ない中、昨年度並みに学校行事等を実施したことで授業時数確保の難しさにつながっていた。 ・行事に関しては、もう一度目的や意義などを検討し、行事の精選を続けていく。 ・評価に関しては、わかりやすさ、透明性などを重視し、生徒・保護者に理解が得られるよう丁寧に説明していく。 ・道徳・学活・総合に関しても授業時数が確保されていて、計画通り進められているので、今後も継続していく。					
【改善策】 ・授業時数の確保を最優先して、会議や行事の取り組みの時間設定を工夫しながら、曜日の入れ替えや授業変更、補欠授業の設定などを今後もきめ細かく対応していく。 ・各教科の指導計画・評価計画が適切であるか、道徳・学活・総合の目標に沿った計画になっているのかを今後も検証をしていく。 ・会議や行事の目的・意義・実施時期などを再検討し、会議・行事の精選を続けていく。					

③学校運営組織					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
5	学校運営にふさわしい校務分掌（組織や個人）がなされ、それぞれ適切に機能している。	87%	13%	80%	20%
6	教職員が相互理解や信頼関係を深め、協働体制で校務や教育活動などにあたっている。	77%	23%	94%	6%
7	管理職・教職員・学年・各分掌などで、報告・連絡・相談・確認が学校全体として機能して いる。	77%	23%	92%	8%
【考察と課題】 ・教職員が協働体制で教育活動にあたっている、報告・連絡・相談・確認が機能している、2つの項目においてどちらも15 ポイント以上上がっている。相互理解や信頼関係が構築され、相談や話し合いがしやすい環境に改善されているが、これから も職員の働きやすい環境作りに努めていく。 ・校務分掌に関して、7ポイント下がっている。分掌に関しては、適材適所、仕事負担量などを熟慮し決定しているが、教員 不足の中、一人ひとりにかかる負担が大きくなっているため、校務分掌の調整や行事の精選など学校全体として改善してい かなければならない。 ・各分掌において、業務内容の改善できる部分を明らかにして、対応していく。					
【改善策】 ・分掌に関しては、勤務形態や職員の状況を熟慮しながら決定していき、決定に至った経緯や要素などを明確にし、それをわ かりやすく伝えていく。 ・各分掌において、業務内容を洗い出し、精選していく中で、効率よく業務が遂行できるようにする。 ・掲示板や回覧、メール等を利用し、連絡や確認事項を効率よく伝達していく。 ・相談や話し合いがしやすい関係を構築し、その中で職務上の困り感などを聞き取り、適切に指導・助言をしていく。また、 人事評価制度の面談などを通して、職員の取り組みの成果などを確認し、職務が意欲的に遂行できるようにする。					

④安全管理・防災					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
8	安全・防災・防犯・情報などの危機管理意識を持ち、適切に点検・管理・訓練を行っている。	94%	6%	98%	2%
9	防災計画マニュアルにより大規模地震災害や火災発生時の緊急体制が整備され、避難訓練や引き取り訓練等防災教育が適切に実施されている。	100%	0%	98%	2%
【考察と課題】					
・肯定的な意見が殆どであり、安全・防災・防犯・情報・防災教育等において危機管理意識が強いといえる。 ・予告無し訓練を実施しているが、職員、生徒とも緊張感を持って訓練を行うことができ、防災意識も高めることができた。 ・訓練実施の際、事前指導と事後指導を行うことにより、避難経路の確認や訓練の反省ができ、防災についてより深く考えることができた。 ・職員の反省が個人による記述式となっていたので、訓練全体の様子が見えるようにする必要がある。					
【改善策】					
・職員の反省がアンケート形式になっていたが、実施後全体でフィードバックを実施し、全体の様子や具体的な動きなどの確認をする。 ・事前指導において、より詳しく具体的な資料を提示し、訓練の目標や意義を理解させる。 ・今年度実施できなかった地区別協働防災訓練で、地区長など地域の人たちと連携をして、生徒が地域のために自主的に行動できるように指導していく。 ・施設設備の安全確認を、日常の中でより意識できるように促し、安全点検などを通して異常がある場合はすぐに報告できるような環境を整える。					

⑤特別支援教育					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
10	教職員の共通理解の基で特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	86%	14%	81%	19%
11	専門機関などとの連携を図り、特性や障害に応じた指導計画の作成や適切な指導を行っている。	92%	8%	86%	14%
【考察と課題】 ・共通理解のもとで指導を行っている、専門機関等と連携を図り指導を行っている、2つの項目とも5ポイント以上下がっている。特別な支援が必要な生徒が増えていく中、個に応じた指導について明確にしていく必要がある。 ・教員不足の中であるが、特別支援についてもより専門的な指導を行っていく必要がある。 ・特性や障害の程度など多種多様化する中で、スクールカウンセラーや外部機関と連携をとりながら、職員のスキルを上げていきたい。					
【改善策】 ・学校全体として特別支援教育に関して、学習会や研修会などを実施し、職員のスキルを高めていく。 ・校内支援会議などで生徒個々の特性や障害を確認し、それを共有しながら指導を行う。 ・外部専門機関や医療機関等と連携し、より具体的な指導計画を作成し、それらを共有しながら適切な指導を行っていく。					

⑥校内研究					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
12	本校の実態をふまえ、教育課題に対応した校内研究が企画され、意欲的、積極的、発展的に取り組んでいる。	100%	0%	100%	0%
【考察と課題】 ・すべての職員が肯定的な意見であった。今年度は食育の公開もあり、研究テーマも食育に関することとしたが、見通しを持った計画や、先生方の研究会での熟議のおかげで研究が深められた。 ・食育に関して、教科横断的な研究、昨年度からの継続的な研究等、学校全体として取り組んできた。経年の変化や、学年ごとの特徴など研究を通して見えてくるものが沢山あった。 ・継続して同一講師を招いており、学級集団づくりに関してより深い研究ができていく。 ・お互いの授業を気軽に参観できる機会を設定し、普段から授業について話し合いができる環境ができていくので、今後さらに継続・深化させていきたい。					
【改善策】 ・食育を通して学んだことを単年で終わらせず、活動を継続していく。 ・授業研究、学級集団づくりは教師として日々研修を続けていくものである。今後も、校内研究という場のみならず、日常の中でも研鑽を続けていく。 ・話し合い活動は「主体的・対話的で深い学び」に必要な不可欠なものである。職員・生徒が話し合いのスキルが身につくような活動を継続していく。					

(3) 学習指導に関すること ⑦学習指導・家庭学習⑧評価⑨キャリアパスポート					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
13	課題や疑問に感じたことを自分から調べるなど、Chromebookを効果的に活用し、興味を持たせて学習に取り組んでいる。	89%	11%	94%	6%
14	「めあて」で見通しを持ち、「振り返り」で成果を確認することで、生徒の学びに向かう力を意識した授業づくりに取り組んでいる。	96%	4%	100%	0%
15	「主体的、対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、質の高い学びの実現に努めている。	91%	9%	96%	4%
16	生徒が学ぶことと大切さを認識し家庭学習を自主的に進めていくよう、意識向上の取り組みを行っている。	83%	17%	86%	14%
17	リモート授業の実施や相談室の活用により、どのような状況に置かれている生徒に対しても学習の保障に努めている。	98%	2%	92%	8%
18	観点別学習状況の評価・評定を生徒や保護者に明確にし、信頼性を確保し、説明責任が果たせるよう努めている。	96%	4%	100%	0%
19	キャリアパスポートの効果的な利用を含め、職業観や人間関係形成・社会形成能力を育成するための指導に努めている。	83%	17%	85%	15%
【考察と課題】					
・殆どの項目で昨年度よりポイントが上がっている。学習指導に関して、成果が現れている。 ・「主体的・対話的で深い学び」の項目が5ポイント上がっている。校内研修などを通して職員の授業改善に対する意識が高まっているので、今後も若手、ベテラン関係なく授業力向上に努めていく。 ・Chromebookの活用の項目も5ポイント上がっている。ICT機器が特別なものではなく普段使いの学習用具となってきたが、使用場所や使用目的をもう一度しっかり伝えていく必要がある。 ・生徒アンケートでも、先生方はわかりやすく授業を進めているかという項目に対して90%以上の生徒が肯定的に意見となっている。保護者アンケートでも85%以上の方が肯定的な意見である。今後もめあてを明確にし、よりわかりやすい授業作りに努めていく。 ・キャリアパスポートについて、利用目的を含めより効果的な利用方法をさらに深く検討していくことが必要である。 ・家庭学習について、各学年ごとの取り組みもあるが、生徒・保護者とも、取り組んでいると回答した割合が60%程度である。より具体的な家庭学習の方法を伝えていく必要がある。					
【改善策】					
・ICT機器について、調べ学習やレポートの提出だけにとどまらず、話し合いや意見集約のツールとして活用していく。また、ICT機器の利用に偏りがでないように資料の共有や研修会、学習会を開催する。 ・行事や学期の節目などで目標設定や振り返りの時間を設け、キャリアパスポートなどを活用し、教師が対話的に関わりキャリア形成を促していく。 ・家庭学習について、時間や量など具体的に示し、目標を持つ中で家庭学習が進められるよう取り組んでいく。 ・生徒が主体的に学習できるように対話的な協働学習を積極的に取り入れ、深い学びに向けた授業改善により一層取り組んでいく。 ・様々な形態のリモート授業を取り入れ、個に応じた学習が充実できるよう、実施時間、実施方法等を改善していく。					

(4) 生徒指導に関すること ⑩生徒指導					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう 思う	あまり思わ ない そう思わ ない	そう思う ややそう 思う	あまり思わ ない そう思わ ない
20	生徒指導目標に沿って、組織的な生徒指導体制が構築され、情報交換および指導の方向性が統一されて指導が進められている。	85%	15%	90%	10%
21	いじめ・問題行動や不登校の予防、早期発見や解決に向けて学年、全校体制で適切に指導に取り組んでいる。	98%	2%	96%	4%
22	携帯電話やSNS等の適切な使用について、情報モラルや依存症等の対策を含め適切な指導がおこなわれている。	94%	6%	85%	15%
【考察と課題】 ・組織的な生徒指導体制が構築され指導の方向性が統一されているの項目では、5ポイント上がっている。生徒や保護者のアンケートでも、決まりを守っているか、守るように指導しているかの項目で90%以上肯定的な回答であり、生徒指導が的確に進められていたといえる。 ・いじめ・問題行動や不登校の対応については、いじめ困りごと調査アンケートの実施や定期的な会議の設定など適切に指導に取り組んでいるという回答が殆どであったが、保護者アンケートでは20%以上否定的な回答であった。生徒アンケートで相談する先生がいるかの項目で20%以上が否定的な回答でもあるので、日常生活の中で、職員が変化に気づき早期発見ができるような環境作り雰囲気作りを進めていきたい。 ・生徒数が多い中で、学年単位での指導が多くなっているが、情報の共有や共通理解を全校体制で行う必要がある。 ・SNSに関しては、年々問題が複雑化しているが、常に最新の情報にアンテナを高くし、正確な情報を捉え指導していく必要がある。					
【改善策】 ・不登校生徒に関しては、様々な登校形態や授業参加形態を模索しながら、その生徒に合った指導を確立していく。また、スクールカウンセラーや外部機関と連携をとり、生徒理解、保護者理解を継続していく。 ・報告・連絡・相談・確認を徹底し、素早い対応と組織的な生徒指導体制を全校で確立しながら、共通理解のもと指導を進めていく。 ・いじめやSNS等のトラブルにおいては、事実関係を正確に把握し、指導が一方的になることがないように対応を進めていく。また、トラブルが起きないように、身近な例をあげながら情報モラル教育を進める。 ・日常生活の中で、生徒の変化に素早く対応できるような関わりを、担任だけでなく全校体制で構築していく。					

(5) 保護者・地域社会との関連に関すること ⑩情報発信⑩PTA活動・コミュニティスクール					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない	そう思う ややそう思う	あまり思わない そう思わない
23	保護者と連携して教育活動を進めるよう、HP、各種通信、お知らせ、動画配信、電話連絡・家庭訪問などで情報提供をしている。	98%	2%	100%	0%
24	学校開放日や有価物回収、人権講話や地域ボランティア等の利用を始め、PTA活動、学校運営協議会の活性化をはかり保護者、地域との連携を深めている。	98%	2%	96%	4%
【考察と課題】					
・どの項目も肯定的回答が高く、保護者や地域社会との関連は適切に行われているといえる。 ・保護者アンケートでは、保護者、地域との連携については90%以上、情報提供の部分では85%以上が肯定的な回答である。保護者も学校の情報を把握し、連携を意識しているといえる。 ・学園祭や激励会など、保護者が直接見学できない場合であっても動画配信などで学校の様子を情報提供することができた。 ・コミュニティスクールとして、保護者、地域社会との関連は深く、有価物回収、地域ボランティア等、保護者、地域の方たちと教育活動を実施しているが、目標や意義を考えつつ活動の見直しや改善をしていく必要がある。					
【改善策】					
・引き続き安心メールや動画配信、HP等を活用しながら、保護者、地域の方々に、より多くの情報を提供していく。 ・PTA活動や学校開放日、有価物回収等、目的や意義などを明確に示し、より多くの保護者、地域の方々に参加していただけるよう情報発信していく。 ・PTAや学校運営協議会等と連携し、地域社会との協働活動を見直し、職員、保護者、地域の方々にとってより良い活動にしていく。					

(6) 施設・設備に関すること ㊸施設・設備					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
25	学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	98%	2%	98%	2%
26	教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品など、有効活用している。	100%	0%	98%	2%
27	「働き方改革」に向けて必要な設備や教科備品等を活用している。	85%	15%	80%	20%
【考察と課題】 ・学校施設設備、備品等については、質量ともに充実しているといえる。 ・校舎の増設により、教室数が増え、各フロアにおいても空間的な余裕が生まれた。 ・働き方改革に向けての設備や教科備品等については、否定的な意見が20%である。電話機自動応答システムや最新のプリンター等、業務を改善するための設備備品等も増えてきているので、使用目的や使用方法等周知していく。					
【改善策】 ・新しく導入された施設設備、備品等、有効活用するために、機能や使用方法等を伝達していく。また、それらが職員の負担軽減や業務削減のためでもあることを改めて意識していく。 ・備品や消耗品に関して、大切に使うことを意識し、管理、確認を徹底する。					

〔7〕 目指す学校像、生徒像、教師像に関すること ㊤教育目標					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
28	自分で考え、自分で決めた志や夢、目標が持てるような生徒の育成に努めている			98%	2%
29	生徒との人間的な心のふれあいを基盤とし、生徒一人ひとりに寄り添った教育実践に努めている			98%	2%
30	子どもに自信を持たせ、自ら取り組んでいこうとする態度を意識した教育活動を推進している			96%	4%
【考察と課題】 ・今年度より新たに追加した項目であり、昨年度との比較はできないが、すべての項目で95%以上肯定的な回答である。教育目標は学校の基盤となる部分であり、それらを意識して業務に当たっているといえる。行事の精選や業務改善などを進め、今まで以上に気持ちにゆとりを持って目指す学校像、生徒像、教師像に近づけるよう意識していく。 ・社会情勢や家庭環境、経済情勢等がめまぐるしく変わっていく中、校内研究や研修を通して、教師の力量を高める活動を継続していく必要がある。					
【改善策】 ・目指す学校像、生徒像、教師像を学校全体で常に確認・共有しながら、研究活動や研修の意義を考えつつ、真摯に業務を遂行する。 ・生徒一人ひとりに寄り添った教育実践を進めるため、今まで以上に行事の精選、業務の改善を実施していく。					

(7) 学校の特色に関すること ㊦学校の特色					
No.	具体的評価内容	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い	そう思う ややそう思 う	あまり思わ ない そう思わな い
31	安心メールの活用によるペーパーレス化は本校の特色として定着してきている。	96%	4%	94%	6%
32	「働き方改革」に向けて、勤務時間を意識して効率よく業務が遂行できている。	71%	29%	61%	39%
33	生徒は、目標をもって楽しく学校生活を送っている。	90%	10%	94%	6%
【考察と課題】 ・働き方改革については、肯定的な意見が60％程度にとどまっていて、昨年度と比べても10ポイント下がっている。教員不足の中、業務に負担を感じ疲弊している職員も多い。行事や会議の精選、分掌の精査等今まで以上に進めていき、職員の業務改善の意識をより高めていきたい。 ・安心メールを活用し、ペーパーレス化はかなり進んでいる。お知らせや通知、通信など、用紙の節約につながり、配布漏れや印刷の手間等もなくなり職員の負担の軽減につながっている。メールの内容、頻度等保護者の意見を聞きながら運用していく。 ・生徒は楽しく学校生活を送っているの項目では、生徒アンケートで90％以上、保護者アンケートでも85％以上が肯定的な回答をしている。殆どの生徒が目標を持って楽しく学校生活を送っている様子が伺える。しかし逆を言えばすべての生徒が楽しく学校生活ができていない面もある。引き続き職員が目標が持てない生徒や学校生活が楽しいと感じていない生徒に寄り添い、個に応じた対応をしていく必要がある。					
【改善策】 ・それぞれの職員が受け持つ分掌の業務量と時間外在勤時間とを関連付け、業務の効率化を具体的に自ら判断できるようにする。 ・取り残される生徒が出ないよう、学校生活すべての場面で学校教育目標を意識しながら個に応じた指導と対応を実践していく。 ・情報発信にあたっては、個人情報に留意し、保護者等の声を拾いながら実施していく。 ・ペーパーレス化による弊害が出ないよう、職員・保護者と確認をとりながら安心メールを運用していく。					